A：寝室からインナーバルコニーをながめる
構造壁と梁に切り取られた開口が連なり、額に入れたような景色が連なる。
構造による制約を逆手にとった空間作りを試みた。

B：キッチン
LDKは一体の空間であるが、低く垂れ下がる梁でLとDとKをゆるやかに区切っている

C：エントランスからダイニング方向を見る
身支度用の大きな鏡は、空間を広く見せる効果も持っている

瑞穂のリノベーション

築40年分譲マンションの1階部分住戸のリノベーションである。全住戸のうち、本物件のみ2住戸分が連なり1住戸となった物件であった。
(玄関は2つあり、7LDKという個室がたくさん連なり、広大な専用庭があるという空間構成)

ここに、ご夫婦＋お子様2人の為の居住空間を考える。

「とにかく広々と生活したい」
というご家族の要望とは裏腹に、リノベーションには不向きとされる壁式構造の建物であった。
面積は122㎡と広いものの、撤去できない分厚いコンクリート壁と低くまで垂れ下がる梁に囲まれた個室が連なっていた。
そこで、大空間を作ることはできなくても、いくつもの性質の異なる空間を、パーソナルなボリュームで連ねることで
居場所がいくつも生まれ、広々と過ごすことができると考えた。

既存のLDKと洋室１つを使い、キッチン・ダイニング・リビングそれぞれのスペースを使いやすいボリュームで確保することにした。
リビングもダイニングも広い上、クランクした平面形状である為、空間が間延びする。そこでエントランスをLDKへ張り出させることで、暗かったエントランスは明るくなり、ダイニングとリビングは使いやすいボリュームへとコンパクト化した。
そして、それぞれの居場所が少しづつずれながら繋がる一体的な空間となった。
また、リビングの端にアルコーブのように囲まれた造り付けソファを作ったり、リビング横に屋外的に使用できるインナーバルコニーを計画し壁一面の本棚とハンモックを作ることで、家族がくつろげる居場所が連なる住まいがつくり上げられた。

所在地：愛知県名古屋市瑞穂区　築年数：40年　建て方：共同建　構造階数：コンクリート壁式構造3階建　延べ・リフォーム面積：122㎡　工事期間：4か月　工事完了：平成28年6月

既存写真①

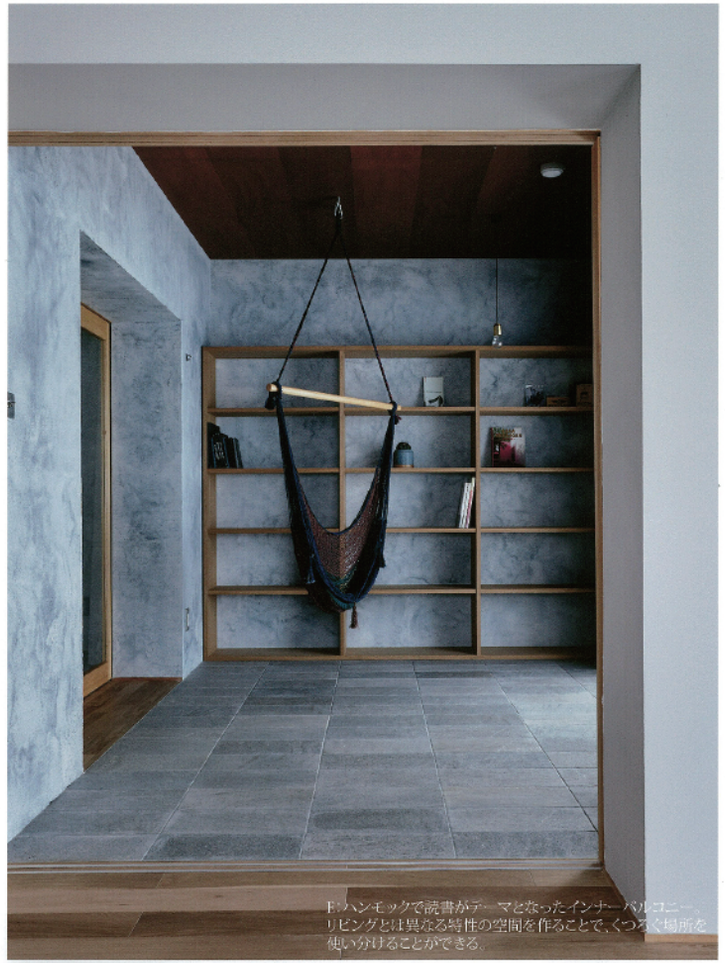
既存写真②

既存写真③

既存写真④

平面図（before）　SC 1:200

D:ダイニングからリビング、インナーバルコニーまで、各スペースが少しづつずれてつながっていることで視線が斜めに通るようになっている



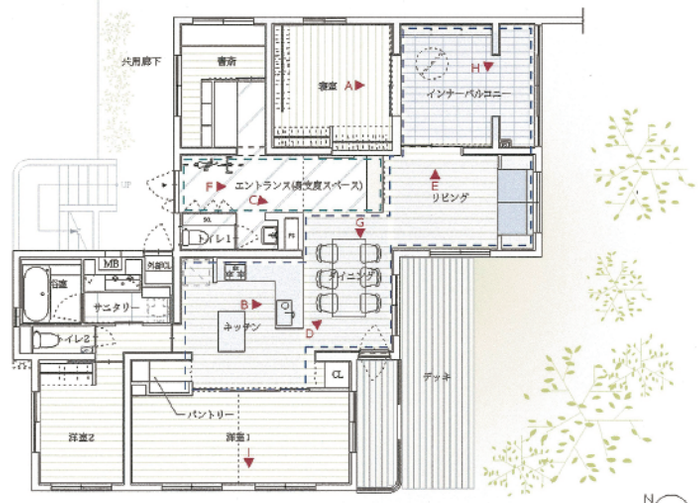
E:ハンモックで読書がテーマとなったインナーバルコニー。リビングとは異なる属性の空間を作ることで、くつろぐ場所を使い分けることができる。

F:家族の身支度スペース
全員分のかばんが入るロッカーのような家具は、目線の高さで作ることで、エントランスからリビングへの目隠しとなっている。

G:ダイニングテーブル越しに見えるのは、暖かみのある木製の網戸

H:インナーバルコニーの床はタイル、壁は左官で仕上げ、室内でありながら屋外を感じさせる空間とした。

I:洋室1
将来的にはクローゼット家具で仕切って2室の子ども室となる。



平面図(after) SC 1:150